

News release (日本語版仮訳)

スイス・リー、堅調な生命・医療再保険事業と良好な運用成績によって 2019年通期は7億2,700万米ドルの純利益を計上

- グループの純利益は2018年の4億2,100万米ドルから7億2,700万米ドルへと73%増加
- 損害再保険事業の純利益は7%増の3億9,600万米ドル。正味既経過保険料は20%増、株主資本利益率(ROE)は4.4%
- 2020年1月の損害再保険事業の契約更改で保険料ボリュームは2%増。財物保険事業の伸びが賠償保険事業の落ち込みによって相殺される。名目保険料は5%上昇
- 生命・医療再保険事業の純利益は18%増の8億9,900万米ドル。ROEは目標レンジを上回る12.4%
- コーポレート・ソリューションズは6億4,700万米ドルの純損失を計上。業績低迷に対応した果敢な経営改革と、米国の賠償保険事業における保険料支払の増加を反映
- ライフ・キャピタルの業績は、以前に発表したReAssure社の売却契約関連費用による影響を受け、純損失は1億7,700万米ドル、総キャッシュフローは11億米ドルに
- 投資収益率(ROI)は4.7%、直接利回りは2.8%と極めて良好
- 取締役会は1株当たり5.90スイス・フランへの5%増配と10億スイス・フランの自社株買いを提案予定
- ジョナサン・イッシャーウッドを、引退を決めたエリック・スミスの後継者として、アメリカ再保険CEO、リージョナル・プレジデント兼グループ・エグゼクティブ・コミッティーのメンバーに任命

チューリッヒ、2020年2月20日 – スイス・リーは本日、グループの2019年通期決算で純利益が73%増の7億2,700万米ドルとなったことを発表しました。グループの損害再保険事業は、自然災害および人災による27億米ドルの大規模な損失や、米国における賠償保険事業の保険金支払の増加による影響を受けました。生命・医療再保険事業は引き続き堅調な業績を達成し、同事業のROEは目標レンジを上回りました。グループの正味既経過保険料および手数料収入は、主に損害再保険事業の保険料の伸びによって12%増の386億米ドルとなりました。グループのROEは1.4%から2.5%に改善しました。グループの資本基盤が非常に強固であることに加え、スイス・リーの長期的資本形成が確実視できる見通しであることから、取締役会は定時株主総会で1株当たり5.90スイス・フランへの増配を提起し、10億スイス・フランを上限とする公開買い付けにより自社株買いの承認を求める予定です。

Media Relations,
Zurich
Telephone +41 43 285 7171


New York
Telephone +1 914 828 6511

Singapore
Telephone +65 6232 3302

Investor Relations,
Zurich
Telephone +41 43 285 4444

Swiss Re Ltd
Mythenquai 50/60
CH-8022 Zurich

Telephone +41 43 285 2121
Fax +41 43 285 2999

www.swissre.com
 @SwissRe

スイス・リー・グループの最高経営責任者であるクリスチャン・ムーメンターラーは次のように述べています。「当社の2019年の業績は、自然災害による大規模な損失、コーポレート・ソリューションズ再編のための果敢な経営改革、および米国の賠償保険事業における保険金支払の増加による影響を受けました。しかしこの悪化傾向に最前線で立ち向かうための積極的な措置を講じ続けています。一方、当社は良好な運用成績を達成しつつ、生命・医療再保険事業では堅調な業績を上げており、多角的なビジネス・モデルの強みを発揮することができました。当社は重要な戦略的マイルストーンとしてReAssure社の売却契約の合意を実現し、さらに2020年は、堅調な1月の契約更改と保険料の上昇機運に支えられ、ポートフォリオの質を高めてスタートを切ることができました。」

スイス・リーは引き続き好調な運用成績を上げており、ROIは2018年の2.8%から2019年には4.7%へと上昇しました。この改善の主な要因は、株式市場での堅調なパフォーマンス(ブラジルの保険グループであるSulAmérica S.A.への出資持分の売却による大幅な貢献を含む)、および債券ポートフォリオの利益でした。世界的に利回りが低下局面にある中、グループの直接利回りは2.9%からほぼ横ばいの2.8%となりました。

グループの資本基盤は非常に強固な状態を維持しており、グループのスイス・ソルベンシー・テスト(SST)比率は目標値である220%を上回っています。グループの資本形成が継続していることを考慮して、スイス・リーの取締役会は、2019年度の1株当たり配当を5.90スイス・フランに5%増額することを提案する予定です。配当金の支払は、2020年4月17日に開催される定時株主総会での承認を経て実施されます。また、取締役会は公開買付による10億スイス・フランを上限とする自社株買いプログラムを株主総会に提案する予定です。この自社株買いは、必要な規制当局の承認を条件として、取締役会の裁量により実施される予定です。

スイス・リー・グループの最高財務責任者であるジョン・デイシーは次のように述べています。「2019年は、大規模な損失事故があったにもかかわらず、スイス・リーは非常に強固な資本基盤と適正な準備金水準を維持しました。損害再保険事業は徹底したコスト管理のもとで力強い成長を達成し、コーポレート・ソリューションズも事業費率を改善しました。生命・医療再保険事業は堅調な業績を維持しています。当社はビジネス・モデルの強みによって、自社株買いによる魅力的な配当を続けることができます。」

損害再保険事業の利益は大規模な自然災害の保険金支払の影響を受けた
損害再保険事業の通期純利益は3億9,600万米ドルとなり、2018年の3億7,000万米ドルから増加しました。この業績は、大規模な自然災害と人災による損失23億米ドルおよび米国の賠償責任保険事業の現状に対処するための対策を反映していますが、これらは、自然災害保険事業の大規模取引と拡大、また非常に堅調な運用成績にけん引された、収益性の高い事業成長によって補われました。正味既経過保険料は20%増加して193億米ドルとなりました。ROEは、2018年の3.7%に対して2019年は4.4%でした。

2019年の大規模な自然災害損失の主な要因は、日本の台風「ハギビス(令和元年台風19号)」と「ファクサイ(令和元年台風15号)」、大西洋のハリケーン「ドリアン」およびオーストラリアの山火事、洪水、雹(ひょう)でした。また、台風「チャービー(平成30年台風21号)」による遅延請求の影響も受けています。さらに、人災による損失には、エチオピア航空の墜落事故とその後のボーイング737 MAX機の運航停止が含まれます。

損害再保険事業のコンバインド・レシオは、2018年の104.0%に対して2019年は107.8%でした。平準化調整後の¹コンバインド・レシオは過去の推定に沿った水準で、2020年には97%へと改善することが予想されています。

1月の損害再保険事業の契約更改では自然災害保険事業が堅調に成長

スイス・リーの2020年1月1日付契約更改における保険料ボリュームは、100億米ドルとなりました。財物保険事業、特に自然災害保険契約における増収が賠償責任種目の減収によって相殺されたため、前年比で見ると保険料ボリュームは2%の増加でした。

今回の更改で損害再保険の名目保険料は5%上昇しました。リスク調整後の適正料率は、金利低下と保守的な損失予想を反映して据え置かれました。日本やオーストラリアなど、多くの被災地域の契約はこれからに更改予定です。

生命・医療再保険事業は引き続き堅調、ROEは目標レンジを上回る

生命・医療再保険事業の純利益は、2018年の7億6,100万米ドルに対して2019年は8億9,900万米ドルと堅調でした。正味既経過保険料および手数料収入は2018年の128億米ドルから130億米ドルへと増加しました。為替差損およびライフ・キャピタルとのグループ内再々保険契約の終了による影響の調整後では、正味既経過保険料および手数料収入は6.9%増となりました。

生命・医療再保険事業の株主資本利益率は2018年の11.1%から12.4%へと改善し、同事業セグメントの目標レンジである10~12%を上回りました。

ReAssure社がQuilter plcからOld Mutual Wealth Life Assurance Limitedを買収した後、再保険特約開始後の金利低下を反映した時価評価をする必要があったため、引受成績には既存契約の帳簿価額のマイナス調整が含まれています。その結果、生命・医療再保険事業の資産ポートフォリオが見直され、同程度の実現利益が生じました。この調整を除くと、引受実績は2018年を上回りました。主な要因は積極的なポートフォリオ管理と米州における死亡率の改善です。

コーポレート・ソリューションズの業績は、業績低下に対処するための果敢な経営改革、および米国の賠償責任保険事業の悪化による影響を受けた

¹前年度の準備金の推移とコーポレート・ソリューションズのアドバース・ディベロップメント・カバーの影響を考慮せず、平均的な大規模自然災害に伴う損失負担を想定。

コーポレート・ソリューションズは 2019 年に 6 億 4,700 万米ドルの純損失を計上し、コンバインド・レシオは 127.9%となりました。この業績は、2019 年 7 月 31 日に発表された、同事業の再編と準備金の強化を目的とする果敢な経営改革の影響を受けています。また、主に最近の米国の賠償責任保険事業の悪化に関連した、過年度の保険事故による大規模および中規模な保険金請求も影響しています。

正味既経過保険料は 6.1%増の 42 億米ドルとなりました。主な増加要因は特定の保険種目における保険料率の 2 桁増と伸びで、一部の引受ポートフォリオの積極的な削減によるマイナス影響を上回りました。

当該事業部門は、よりフォーカスした収益性の高いポートフォリオを今後確実に実現するために、積極的なリスク・エクスポージャーの管理を進めています。2019 年の保険料の上昇機運の高まりは 2020 年初めも続き、コーポレート・ソリューションズは 2020 年 1 月に 14%の保険料上昇を達成しました。コーポレート・ソリューションズの標準化したコンバインド・レシオは、保険料率の上昇機運の加速とポートフォリオ再編の進展に支えられて、2020 年に 105%まで改善すると予想しています。2021 年の標準化したコンバインド・レシオの目標は、引き続き 98%となっています。

ライフ・キャピタルは、ダイナミックに成長するデジタル B2B2C ビジネスへの移行に成功

ライフ・キャピタルは、ReAssure 社の売却契約関連費用 2 億米ドルを反映して 2019 年に 1 億 7,700 万米ドルの純損失を計上しました。この一回限りの会計上の影響を除くと、純利益は 2018 年の 2,300 万米ドルから 5,300 万米ドルへと増加しました。

2019 年 12 月 6 日に公表したとおり、スイス・リーは ReAssure 社の Phoenix Group Holdings plc への売却について合意しました。当該売却は、規制当局および独占禁止法当局による承認を条件に、2020 年半ばに完了する予定です。この取引における ReAssure 社の評価額は 32 億 5,000 万英ポンドです。この取引は、ライフ・キャピタルがダイナミックに成長するデジタル B2B2C ビジネスへと転換するための大きな一歩となります。

正味既経過保険料および手数料収入は、オープンブック事業の成長とグループ内再々保険契約の変更により、前年の 16 億米ドルから 21 億米ドルに増加しました。為替変動の影響を除いた場合、2019 年のオープンブック事業の総収入保険料は 22%伸びました。

ライフ・キャピタルの総キャッシュフローは、前年の 8 億 1,800 万米ドルに対して 2019 年は 11 億米ドルでした。2019 年の総キャッシュフローの増加は、主に ReAssure 社が発行した劣後債を売却したことと、ReAssure 社に対する 10%の持分を MS&AD インシュアランス・グループ・ホールディングス株式会社に売却したことによるものです。これらは ReAssure 社の分割に先立つ資本再構成の影響によって一部相殺されました。

ジョナサン・イッシャーウッドをアメリカ再保険 CEO、リージョナル・プレジデント兼グループ・エグゼクティブ・コミッティーメンバーに任命

現ヘッド・オブ・グローバルズ再保険兼再保険エグゼクティブ・コミッティーメンバーであるジョナサン・イッシャーウッドが、引退を決めたエリック・スミスの後継者に任命されました。イッシャーウッドは 2020 年 4 月 1 日付でアメリカ再保険 CEO に就任し、その後 2020 年 8 月 14 日付でグループ・エグゼクティブ・コミッティーのメンバーに加わります。イッシャーウッドは金融業界において 30 年近くの経験を持つ熟達したリーダーであり、これまでファイナンス、リスク、引受、オペレーション、営業など多岐に渡る職務でリーダーシップを発揮してきました。直近の 7 年間は、再保険事業部門でグローバル顧客担当チームを指揮し、それ以前は再保険のクレーム部門を統括していました。また、GE インシュアランス・ソリューションズ社および GE キャピタル社においても様々な役職を経験しています。

スイス・リーの会長であるウォルター・キールホルツは次のように述べています。「スイス・リーの取締役会を代表して、エリック・スミス氏に 9 年間に渡る貢献に感謝の意を表したいと思います。スミス氏のビジョン、マーケットに関する深い知識、そしてお客様重視の姿勢により、スイス・リーの米州における地位が高められました。ジョナサン・イッシャーウッドは、この重要な役職の後継者として社内から選出された、経営手腕の実績を持ち、かつ、顧客重視の、経験豊かな人材です。彼の今後の活躍に期待しています。」

今後の見通し

グループの最高経営責任者であるクリスチャン・ムーメンターラーは次のように述べています。「お客様、コミュニティ、政府が重大かつ様々な課題に直面する中、当社は皆様のために、2020 年も引き続きレジリエンスを強化することに尽力することを固くお約束します。当社は、ReAssure 社の売却を完了すること、およびポートフォリオの積極的な削減と保険料率の引き上げを通じてコーポレート・ソリューションズの業績を改善することに重点を置きます。当社は、業界の新たな動向に積極的に対応する能力や、魅力的な株主還元を維持しつつ事業機会を捉える能力を維持できるものと確信しています。」

		2018年度	2019年度
グループ連結 (総額)	正味既経過保険料および手数料収入 (百万米ドル)	34 461	38 594
	純利益(百万米ドル)	421	727
	株主資本利益率(%)	1.4	2.5
	投資収益率(%)	2.8	4.7
	直接利回り(%)	2.9	2.8
	株主資本(百万米ドル)	27 930	29 251
	普通株 1株当たりの簿価(米ドル)	93.09	100.64
損害再保険	正味既経過保険料収入(百万米ドル)	16 095	19 275
	純利益(百万米ドル)	370	396
	コンバインド・レシオ(%)	104.0	107.8
	株主資本利益率(%)	3.7	4.4
生命・医療 再保険	正味既経過保険料および手数料収入 (百万米ドル)	12 835	13 004
	純利益(百万米ドル)	761	899
	直接利回り(%)	3.4	3.3
	株主資本利益率(%)	11.1	12.4
コーポレート・ ソリューションズ	正味既経過保険料収入(百万米ドル)	3 925	4 166
	純利益(百万米ドル)	-405	-647
	コンバインド・レシオ(%)	117.5	127.9
	株主資本利益率(%)	-19.4	-34.1
ライフ・キャピタル	正味既経過保険料および手数料収入 (百万米ドル)	1 606	2 149
	純利益(百万米ドル)	23	-177
	総キャッシュフロー(百万米ドル) ²	818	1 138
	株主資本利益率(%)	0.4	-3.4

² 総キャッシュフローとは、当該報告期間中にライフ・キャピタル事業部門の営業活動が創出した正味キャッシュの推定値であり、剰余金の推移と特定の資本政策の両方を考慮しています。スイス・リーとMS&ADの各々が保有するReAssure社の持ち分をグロスで合算した値です。

スイス・リーについて

スイス・リー・グループは世界のレジリエンス向上を目指し、再保険、保険、その他保険ベースのリスク移転で世界をリードする大手再保険会社です。自然災害および気候変動、また高齢化社会からサイバー犯罪に至るまで、さまざまなリスクの予想と管理を行っています。スイス・リー・グループの目標は、お客様のために新しい機会とソリューションを生み出し、社会のさらなる繁栄と発展を可能にすることです。1863年にスイスのチューリッヒで創業したスイス・リーは、世界約80拠点にて事業を展開しています。大きく3つの事業部門に分かれて運営を行い、それぞれの事業部門がグループ全体の理念に寄与する独立した戦略と目標を掲げています。